

オオクチバス

オオクチバス (*Micropterus salmoides*) サンフィッシュ科

原産地：北アメリカ

導入経緯：1925年に釣の対象、食用として芦ノ湖へ導入された。1965年頃から徐々に生息域が拡大し、1970年代には意図的な放流により急激に拡大したと考えられる。

生態：典型的な肉食性であり、オイカワやヨシノボリ類などの魚類、エビ、ザリガニ類などの甲殻類を主食とし、水生昆虫や水面に落下した陸生昆虫、鳥の雛まで捕食する。

【調査結果概要】

河川水辺の国勢調査結果、田んぼの生き物調査、レッドデータブックふくしま作成調査データ、福島県外来魚アンケート調査結果（平成 17 年度実施）、福島県野生動植物保護サポーターによる目撃情報によると、県内の 45 市町村において確認記録がある。

県内全域の水域で確認されている。

福島県自然保護グループが平成 17 年度に実施したアンケート調査の結果によると、北塩原村の沼ではアカヒレタビラ（レッドデータブックふくしま；準絶滅危惧）がいなくなった、相馬市では胃の中からゼニタナゴ（レッドデータブックふくしま；絶滅危惧 類、全国カテゴリー；絶滅危惧 B 類）が確認されるなど生態系への影響が報告されている。

また、オオクチバスの生息する溜池では小型の魚種が確認できない等の影響が報告されている。

文献調査によりオオクチバスが確認された市町村

